

【専門教育関連科目/環境の理解】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
疫学	NSF31_001	選択	2	3・4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
藤井 充	306	mitsuru.fujii	水曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	保健医療の現場では、健康課題の解決が求められている。疫学は、人間集団の健康水準及び疾病予防に関与する要因を明らかにし、解決方策を探し出す方法を理解することを目的とする。反転授業とそれを踏まえた対面授業により、疫学の基本概念、健康事象の把握、分析方法について理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	事前学習を必ずしたうえで授業に積極的に参加してほしい。授業内容に関する質問はメールでも受け付けているので、いつでも気軽に質問してほしい。				
教科書	基本からわかる看護疫学入門 第3版 /著:大木秀一 /医歯薬出版 /2020				
参考書	特になし				
外部教材	疫学 藤井 充 https://www.kenkoudai.ac.jp/information/14933/				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	疫学概念と用語について理解する。		HSU(3),NS(5)		
②	疫学の基本的な指標を理解し、計算することができる。		HSU(3),NS(5)		
③	疫学的手法の種類や特徴を理解する。		HSU(3),NS(5)		
④	疫学の実践を理解し、説明できる。		HSU(3),NS(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	疫学概念、疫学の歴史について学ぶ。(1)	講義・演習	疫学とは何かを具体例をとおして理解すること。	4	
2	疫学概念、疫学の歴史について学ぶ。(2)	講義・反転授業	疫学の歴史から疫学の応用について理解しておくこと。	4	
3	疫学で用いる指標(1)(頻度の測定)について学ぶ。	講義・反転授業	指標の計算ができるようにしておくこと。	4	
4	疫学で用いる指標(2)(頻度の比較)について学ぶ。	講義・反転授業	指標の計算ができるようにしておくこと。	4	
5	観察研究(1)(記述疫学)について学ぶ。	講義・反転授業	記述疫学の3要素を理解しておくこと。	4	
6	観察研究(2)(生態学的研究、横断研究)について学ぶ。	講義・反転授業	生態学的誤謬の概念を理解しておくこと。	4	
7	観察研究(3)(コホート研究)について学ぶ。	講義・反転授業	前向きと後ろ向きコホート研究の違いを整理しておくこと。	4	
8	観察研究(4)(症例対照研究)について学ぶ。	講義・反転授業	症例対照研究とコホート研究の違いを理解すること。	4	
9	介入研究について学ぶ。	講義・反転授業	介入研究の例を挙げられるようにしておくこと。	4	
10	システマティックレビューと因果関係について学ぶ。	講義・反転授業	研究方法による科学的根拠の強さの違いを整理しておくこと。	4	
11	バイアスについて学ぶ。	講義・反転授業	疫学研究によるバイアスを整理しておくこと。	4	
12	交絡因子について学ぶ。	講義・反転授業	例をとおして交絡の概念を理解しておくこと。	4	
13	年齢調整死亡率について学ぶ。	講義・反転授業	直接法と間接法の違いを整理しておくこと。	4	
14	スクリーニングについて学ぶ。	講義・反転授業	スクリーニングの科学的根拠を理解しておくこと。	4	
15	疫学の実践について学ぶ。	グループワーク プレゼンテーション	記述疫学的手法と症例対照研究を復習しておくこと。	4	
試	定期試験、達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育関連科目/環境の理解】

		達成度評価					
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合力指標	知識・技術力	50	0	30	0	20	100
	思考・推論・創造する力	40	0	10	0	10	60
	思考・推論・創造する力	5	0	10	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力	5	0	10	0	0	15	
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	多肢選択形式の筆記試験の正答率で評価				正答率が悪い問題についての解説
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
成果発表	①	✓	課題をグループでまとめ、プレゼンテーションをしてディスカッションを行い、課題の把握、論理的な思考、全体のまとめ方について評価				講義中に講評を実施
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	毎回の講義の際に課す自宅課題の提出状況を評価 講義の出席状況・出席態度を評価				課題についての説明解説
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	公衆衛生医師として、厚生労働省、保健所等に40年間勤務						
実践的授業の内容	保健所での経験をもとに、看護職として現場で経験する可能性がある疫学関連事項を取り上げ、理解を深める。						
その他	・学習内容は、講義の進行度によって前後する可能性がある。						